

学院時報



まよいころ

聖ドミニコ学院学院長

マリア アスンタ 中里郁子



新約聖書のヨハネ福音書の中に、ラザロの姉妹マリアが純粋で高価な香油をイエスに注

ぎ、家が香油の香でいっぱいになったというお話があります。この行為に対して、後にイエスを裏切るユダが、「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか」と言っていることから、姉妹マリアの注いだ香油は三百日分の賃金にも等しい高価なものであることがわかります。

これは、イエスがベタニアのラザロの家を訪れた時の出来事です。このラザロは以前に亡くなって墓に葬られた後にイエスが「ラザロ、出てきなさい」と言われると顔が覆いに包まれたまま生き返って出て来たことが記されています。ラザロの姉妹マリアにとっても、このような高価な香油を注いだことは、自分の生活の全てをイエスに注いだとも言えるような行為であり、マリアは、イエスに対する言い表せない程の感謝と愛を香油に託し、イエスに対する自分のまよころを伝えます。

他方、イエスを裏切るユダのイエスとの関わりは、どのようなものであったのでしょうか。ユダはイエスの弟子のひとりでしたが、貧しい人々を心にかけていたのではなく、盗人で金入れを

預かっていながら中身をこまかしていたと記されています。彼は、イエスを地上の救い主であるか期待し、自身身の人生にとって野心を実現するために必要な手段としてイエスとの関わりを続けていたかもしれませぬ。

私たちは、日頃多くの人々との関わりを持ちながら生きておりますが、その関わりは、どのような動機に基づいているのでしょうか。人との関わりは、マリアのようにまよころから相手思いや関わりであることも、相手を自分の手段と考えて持つ関わりとみることもあり得ます。本学院で神のみことばを学んでいる園児・児童・生徒の皆さんが、どんな人ともまよころを持って関わる豊かな心を育んでいただけるよう心から祈念いたしております。

「喜びとともに」

中学校高等学校校長 柳野 祐一



木々の芽吹きに春を感じる季節は、卒業を迎える園児児童生徒の皆さんにとって新たな途に就く旅立ちのときです。卒園・卒業おめでとうございます。聖ドミニコ学院での、喜びと愛を知る学びを通して、よりよく生きるための力を育んできたことと思います。

ドミニコ学院で学んだ喜びは、持続的な喜びであります。中世最大の哲学

No.106

令和8年3月1日発行

聖ドミニコ学院

幼稚園・小学校

中学校・高等学校

〒980-0874

仙台市青葉区角五郎2-2-14

URL: <http://www.dominic.ac.jp>

TEL 022(222)6337

FAX 022(221)6203

北仙台幼稚園

〒981-0914

青葉区堤通雨宮町11-11

TEL 022(234)3615

FAX 022(342)0555

者・神学者でドミニコ会士のトマス・アクィナスは「人間は空腹を我慢できないのと同じように、心の喜びがない状態にも耐えられない」と考えました。現代社会ではこのような空腹をずっとスマホのSNSをスクロールすることから得られる一時的な刺激で埋めようとする人もいます。持続性がなく瞬間的な喜びで、次の刺激を探す終わりのない渴きを生みます。

しかし、「存在しているだけで善である」という本学院での学び舎においては、知らず知らず「自分らしくいられる喜び」を得ることができ、それは持続的な喜びとなり、自己肯定感だけではなく他者に対しての愛にも繋がっていきます。

このドミニコ学院で培った学びを糧に、これからも喜びを胸に豊かな人生を歩んでいくことを心よりお祈りいたします。

煌くドミニコハーモニー

合唱団顧問 齋藤 朋枝

春。新体制で練習を進める中、合唱団が大切にしたい思い「ハーモニーが日毎に分らなくなってきた。前年度、合唱団悲願を達成し、私達は燃え尽きてしまったのか。挑戦を恐れ、足踏みをしている自分があるのか。モヤモヤを抱え、気づけば夏休み。毎日必死に歌うも、時間が止まった様な停滞感にどん底を感じる中、人生最後の合唱の夏と腹を括った途端、心は熱く燃え始めた。外部指導者や伴奏の先生の助言に支えら

れ、私は初心にかえり、子ども達の声に耳を傾けた。基礎からやり直し、秋私達は生まれ変わった様に、「本気で音楽に向き合う喜び」を感じた。二月、廊下に響くドミニコハーモニーはグンと成長し、歌えることへの感謝、そして仲間との絆が溢れている。「諦めないで良かった」子ども達と自分の心に語りかけ「今日も頑張るぞ」と気合いっぱい、音楽室に入る。大好きな天使の歌声にかけがえない未来を感じながら。



【受賞歴】
第七十八回 全日本合唱コンクール 全国大会 小学生部門 金賞
♪六大会連続受賞
令和七年 仙台市文化芸術賞

仲間と積み重ねた努力を存分に発揮し、最高のハーモニーを響かせ、大変光栄な受賞の機会を頂きました。保護者の皆様、学院、地域の方々の多大なる応援、ご協力に心より感謝申し上げます。

★【第二十一回卒業演奏会開催のお知らせ】
令和八年 三月十五日(日)

開場 十三時半 開演 十四時
会場 聖ドミニコ学院 聖堂
入場無料

聖書のつぼ

「主は、必ず祈りを聞き入れてくださる。」
(シラ書3章5節)

「求めたものは一つとして与えられなかったが、願いは、すべて聞き届けられた。」これは、アメリカ南北戦争の時代、南軍の兵士が書いた『ある無名戦士の詩』の結びの一節です。生きていく上で必要なこと、必要なものを求め続けた兵士が最後に得たものは何だったのか。是非皆さんご自分で検索してみてください。神は、わたしたちの祈りを必ず聞き入れてくださるのだということを『ある無名戦士の詩』から学ぶことができるでしょう。「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ。」(マタイによる福音書6章8節)
イエスの教えです。祈りは神との対話です。父なる神は沈黙のうちに、わたしたちの声に耳を傾けてくださいます。そして、わたしたちの祈りに応えてくださるのである。

中学校高等学校宗教科

菊森 拓也

幼稚園

運動会

十月四日(土)、秋晴れの空の下、今年度の運動会が開催されました。今年のテーマは「さあ、運動会の開幕だ！みんなで盛り上がりよう！」。子どもたちは約一か月間、各年齢ごとに練習を重ね、本番に向けて一生懸命取り組んできました。満三歳児は親子でのお遊戯、年少はお遊戯、年中はパラバルーン、年長は組体操や縄跳びなど、それぞれが暑さに負けず、自分の力を発揮しながら友達と協力する大切さを学んでいました。当日は、全園児が期待を胸に笑顔で登園し、開幕のファンファーレで運動会がスタートしました。

これまでの練習の成果を出そうと頑張る姿はどの子も輝いており、会場全体が温かい雰囲気にも包まれました。

また、今年度からは一般の未就園児競技や保護者競技も復活し、より一層の活気が感じられる運動会となりました。

さらに、多くの来賓の方々にもご来場いただき、子どもたちへ温かい眼差しとエールを送ってくださいました。

皆さまの温かいご声援に心より感謝申し上げます。



園外仲良しランド

毎年秋になると、小学生のお兄さんお姉さんと一緒に遊ぶ、「園外仲良しランド」があります。

例年は近くの広瀬川へ散策に出かけていたのですが、今年度は熊の出没が相次いだため、敷地内で年限ごとに分かれて活動を行いました。満三歳・年少は三年生と、年中は二年生と、年長は一年生とそれぞれペアを組み、ボール送りや爆弾ゲーム、じゃんけん列車などの遊びを一緒に楽しみました。はじめは緊張した表情を見せていた幼稚園の子どもたちも、小学生のお兄さんお姉さんの優しい声が見られました。次第に笑顔が増えていく様子が見られました。短い時間ではありましたが、最後にはペアになった小学生から、名前とメッセージが書かれたメダルのプレゼントをもらい、「もらったよ！」と嬉しそうに見せてくれる子どもたちの姿が印象的でした。

また、園外仲良しランドだけではなく、毎週火曜日の昼食後にも、小学生と一緒に遊ぶ時間があり、一緒に遊んでくれた、お兄さんお姉さんを見つけては、再会を喜び、限られた時間の中で楽しく交流しています。これからも、小学生との交流の時間を大切に続けていきたいと思えます。



礼拝会・聖劇

幼稚園では十一月中旬頃から待降節が始まり、お祈りや聖劇の練習を通して、イエス様のお誕生をみんなが待ち望みました。

年少では初めて取り組むお子さまもおり、最初は「クリスマスは誰のお誕生日をお祝いするのか」「イエス様はどのようにお生まれになったのか」というイエス様誕生のお話を、絵本を読みながら伝えていきました。また、初めて自分の役を担い、歌や踊り、台詞の表現にも挑戦しました。

年長・年中・満三歳児との合同練習が始まると、様々な役があることを知り、他の年齢の友達に夢中になって見入り、「ちゅうりっぷばっちになつたら兵隊をやりたい！」と興味を示す姿も見られました。友達や先生方と力を合わせ、喜びの心をもつて取り組んだ聖劇は、きつと見に来てくださいました皆様の心にも届いたことと思います。

ご家庭でもお祈りや思いやりの心で過ごしていたことが感じられた四週間でした。



保護者の方より

大久保 百子

上の子も含め長いようで短い幼稚園生活が、いよいよ終わりを迎えようとしています。恥ずかしいがり屋で人前に立つことが苦手だった息子ですが、年長の運動会で大きな声で挨拶をした姿をみた時の感動は今でも忘れられません。どんな時も子どもの持つ力を信じ、そばでそっと見守って下さる先生方の姿は、子どもたちに大きな自信を与えてくれました。

卒園した後も、困っているお友達にそっと手を差し伸べたり、何事にも粘り強く取り組む姿を見ると、園で育まれた「心」がしっかりと根付いていることを実感しています。明るく・強く・正しい心。大切に伝えていただいたこの言葉が、これからも子どもたちの心の道しるべとなり、健やかな成長へと繋がっていくことを願っています。十年という長い間、大変お世話になりました。関わってくださった全ての方に心より感謝申し上げます。



北仙台幼稚園

発表会

年少

年少では、発表会で「おおきなかぶ」の劇を披露しました。日頃からかぶを育てていたこともあり、子どもたちは「大きくなるかな」と期待を膨らませながら準備を進めてきました。最初は日替わりで好きな役を選び、「うんとこしょどっこいしょー」の掛け声とともに劇ごっこを楽しみ、役になりきる面白さを味わっていました。

発表会に向けては、自分が表現したい役を決め、少しずつ練習を重ねていきました。当日は、お家の方々に見守られながら緊張した様子も見られましたが、これまで取り組んできた動きや言葉や一生懸命に表現していました。

劇の後には、遠足で拾ったどんぐりで作ったマラカスを手に、みんなで元気に歌を披露しました。終わった後の子どもたちの表情には、「楽しかった」という満足感があふれていました。

大好きなお家の方に見てもらえた初めての発表会は、子どもたちにとって大きな自信となり、成長を感じられる一日となりました。

年中

年中児は「ありんこのアリー」の劇に取り組みました。物知りアリや力持ちアリ、かわいいアリなど、個性豊かな仲間たちが誕生日ケーキを巡って「一人の大切はみんなの大切」という思いやりに気づいていく物語です。子どもたちは少人数でのセリフやさまざまな動きに挑戦し、最初は緊張していた子どもも、練習を重ねるうちに自信を持って声を出せるようになりました。友達とタイミングを合わせたり、相手の言葉をよく聞いたりする中で自然な掛け合いが生まれ、仲間とのつながりもより深まっていきました。本番当日は、どの子ども役になりきり堂々と舞台上に立ち、これまでの努力がしっかりと実を結んだ姿を見せてくれました。表情やしぐさにも成長が感じられ、劇遊びを通して協力する楽しさや、仲間を思いやる気持ちや学んだことが伝わってきました。

これからも、子どもたちが互いに支え合いながら新しいことに挑戦していく姿を温かく見守っていきたいと思えます。

年長

二学期の大きな行事の締めくくりとして、発表会を行いました。幼稚園生活最後となる年長児は、日頃お祈りしているイエス様のご誕生を題材にした「一番はじめのクリスマス」の聖劇を発表しました。昨年からの年長児の聖劇に憧れを抱いていたこともあり、配役決めや段階から大いに盛り上がり、それぞれが役の意味や自分が挑戦したいことを考えながら役を選んでいきました。

練習を重ねる中で、セリフを覚えるだけでなく、「上手にやりたい」という思いが強くなるほど緊張したり、焦って立ち位置を間違えてしまったりと、悔しい経験もありました。それでも、子どもたちは互いに励まし合い、頑張りや認め合いながら取り組み続け、一人ひとりが自信を深めていきました。

また、ハンドベル演奏にも挑戦し、三々四人のグループで心を一つにして演奏を披露しました。仲間と力を合わせて作り上げた時間は、子どもたちにとって大きな達成感と喜びにつながり、最高の思い出となりました。



アニマルランド

十月十七日、石巻ベットセンターの協力を得て、園庭でアニマルランドを実施しました。朝から晴天に恵まれ、子どもたちは「どんな動物がいるのかな」「早く触りたいね」と話しながら、期待を膨らませて登園していました。活動前には、動物と安全に関わるための約束を確認し、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。触れ合いが始まると、最初は緊張していた子どもも、優しく撫でたり抱っこしたりするうちに表情が和らぎ、笑顔が多く見られました。

後半には未就園児も参加し、年長児が「怖くないよ」「一緒になでてみよう」と声を掛けながら関わる姿が見られ、頼もしさを感じられました。動物との触れ合いを通して、友達とのやり取りを楽しみながら、命の温かさや大切さに触れる貴重な機会となりました。



感謝巡り

十月二十四日と二十七日に、勤労感謝の日（十一月二十三日）を前に「感謝巡り」を行いました。日頃お世話になっている地域の方々へ、子どもたちが直接感謝の気持ちを伝える機会となりました。

二十四日には年長児が北仙台警察署を、二十七日には年少児・年中児が青葉消防署を訪ねました。どちらの施設でも温かく迎えていただき、緊張していた子どもたちの表情も次第に和らいでいきました。

「いつも私たちを守ってください、ありがとうございます」と感謝の言葉を伝え、手作りのプレゼントをお渡しすると、皆様が喜んでくださり、子どもたちも嬉しそうなお様子でした。

今回の活動を通して、自分たちが多くの人に支えられていることを感じ、感謝の気持ちを言葉で伝える大切さを学ぶ時間となりました。お忙しい中ご対応いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。



小学校

今年度も様々な体験を通して、子供たちは仲間と力を合わせることや諦めずに自分の力を精いっぱい発揮することなど、多くのことを学ぶことができました。日々の学校生活の中でも子供たちはさまざまな力を身に付けています。

ここでは、一年生から六年生までの各学年での取り組みをご紹介します。

一年生

二月の学芸会では、一年生みんなで楽しく劇に取り組みました。「自分たちで創る劇」をテーマに、台本のアイデアを出し合ったり思い思いの衣装を作ったりと、わくわくしながら準備を進めてきました。

一つの作品を一緒に創り上げる中で、子供たちの成長が沢山感じられる時間になりました。



（本番前の意気込み作文から）

「もつすぐ学びがい」

一年 つちや えみか

学びがいかのれんしゅうでは、せりふをとめないでいうことと、うごきをつけることをがんばりました。みんなでそろえるの

がむずかしかったけれど、れんしゅうはたのしかったです。

本ばんは、みんなでたのしみながらげきをしたいです。おきゃくさんに「いいげきだった。」とおもってもらえるように、力をあわせてがんばります。

二年生

「町のすてきを探そう」をテーマに、二年生では、生活科「町たんけん」を行いました。町たんけん前日まで質問したいことをたっぷり時間をかけて考えました。インターネットや本で仕事内容を調べ、「実際にはこの作業はどうなっているのかな？」や「どうしても聞いてみたいー」など、興味が深まっている子供の意見が聞こえてきました。



町たんけんに行った後、「インタビューして心に残ったことや、素敵なことを友達に伝えたい。」という考えや、「ほかの班が行ってきた場所のすてきも知りたい。」という意見が。そこで、より詳しく、楽しく、分かりやすく伝えるための方法を班で話し合い、新聞や本、スライドショー等の形に、工夫して作り上げました。

発表会では、そのお店にしかない驚きの情報を聞くたびに教室が盛り上がりました。八幡町のお店の仕事内容のほかにも、町で働いている人の気持ちも知り、地域への親しみをもちながら、この学習を進められたことが一番の収穫になりました。



三年生

冬に取り組んだ書写の作品をお互いに見合う時間を取りました。そこで作品を見て感じたことや、取り組んで考えたことなどを作文にしました。



「書き初めは戦いである」

三年 櫻井 逸翔

僕は今、困っている。なぜなら、書き初めの宿題が終わらないからだ。書き初めは僕の冬休みの敵だ。ただでさえ大変なのに、三年生になってから、硬筆に加えて、毛筆も増えたのだ。

今年も早速一番に取りかかる。毛筆は今月初めてだから緊張した。僕のおばあちゃんは習字の先生をしていた。だから教えてもらうことにした。止め、はね、はらいがとても重要と言われたが、それがなかなか上手いれない。何度もすごく間違えて、間違えて、三時間くらい戦った。やっとすごく良い作品が三枚できて、満足できた。上手くできたので「金賞かも」なんて思っ、うれしくなった。

まだまだ、書き初めの戦いは続く。硬筆は一字目が上手くいったと思ったら、二文字目で失敗。一行目が上手くいったと思ったら、二行目で失敗。途中で鉛筆が折れたり、難しい漢字で苦戦したりした。気を取り直して頑張った。その中で上手くいった二枚を出した。今回は頑張ったから、賞を取れると良いなと思った。そして、書写展を見に行った。硬筆が銅

賞を取っていた。おばあちゃんといっしょに頑張った習字が、賞を取れなかった。嬉しいと悔しいが交ざった戦いの終わりだった。飾ってあるものは、みんなの努力の塊なんだなと思った。来年は、毛筆も硬筆も賞を取りたい。僕の戦いは続く。

四年生

小学校では、毎年ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」の募金を行っています。世界の困っている子供たちに目を向け、自分たちができることは何かを考えます。今年度は自宅募金だけではなく、「たくさんの人にこの活動と世界の現状を知ってもらうために街頭募金を行いたい」という四年生の提案から、学院内の中学生や職員の方々にもご協力いただきました。募金活動を終えた子供たちからは、「この募金で少しでも多くの子供たちが救われるといいな。」「また来年も街頭募金をしたい。」「緊張していたけど、たくさん募金してもらって嬉しかった。」「など、笑顔で前向きな声が聞きました。

たくさんの方々のご協力、ありがとうございます。今後も周りの人のために行動できる優しさをもち続けてほしいと思っています。



五年生

五年生の国語科で、高見順氏の「われは草なり」を学習しました。五音、七音の組み合わせによって作られた詩は、リズムが良く、草である自分の運命を受け入れ、あるがままに一生涯懸命に生きようとする姿の美しさが表現されています。そこで、原作の良さを取り入れながら、「われは人なり」を作成しました。「われ」を表現する、子供たちの作品をご覧ください。



六年生

六年生は十月に広島・大阪へ修学旅行に行ってきました。総合学習で年間を通して取り組んできた平和学習の中でも、特に大きなイベントです。平和記念公園では被爆体験講話を聞いたり、資料館を見学したりして、学びを深めていきました。

「修学旅行で学んだこと」

六年 兼堀 心花

私は修学旅行に行き、広島の前原や戦争の歴史だけでなく、平和についても学ぶ事ができました。

一九四五年八月六日、広島に一発の原爆が落とされ、約十四万人の命が一瞬にして消えてしまいました。資料館では、その時のとてもショッキングな写真を見たり、音声を聞いたりしました。

被爆体験講話では、被爆者の桑原さんの話を聞き、いつ病気になるかわからない不安を抱えながら、辛い毎日を過ごしていたという話を聞いて、とても悲しく思いました。

特に私の心に残ったことは、桑原さんが七歳の時に原爆が落とされて、七十七年後に骨髄腫という病気になってしまい、一日に薬を三十錠も飲んでいくという事です。一発で町が消えてしまうほどの威力があり、しかもその後何十年も苦しむような核兵器が世界に約二万発もあることは、とても怖く、恐ろしいことだと思いました。

私は戦争を経験した事が無いけれど、当時の人たちは本当に怖く、辛く、大変だったと思います。亡くなった人は本当に辛かっただろうし、生きている人は知人が亡くなった、自分が痛い思いをしたりして過ごしてい

たと思います。こんなにもたくさんの方が苦しむのになぜ戦争をするのか、身勝手な行動をする人間が本当に不思議に感じます。

資料館では、戦争中に着ていた服や、食べ物としていたお弁当が真っ黒になってしまっている様子の中爆弾から逃げて過ごしていた様子の資料も見ました。

私は、戦争を絶対にしたくありません。そのため、戦争についてもっと知り、身近な事からできることを探していけたら良いなと思います。

原爆投下から八十年も経っているけれど、まだ原爆ドームがあります。しかし、ドームはほとんど崩れていて、骨組みが残っているだけでした。どれほど強く、大きい音で眩しい光の原爆が落ちたのかがよく分かります。

平和はずっと続いてほしいけれど、戦争は何度も起きてしまうのが事実です。修学旅行は終わってしまったけれど、戦争を終わらせるために私達はこういうことができるのか、平和について考えていきたいと思います。

誰か一人でも戦争をしようにと考えていると、戦争は絶対に終わりません。全員で戦争を無くそうと考えるのは難しいけれど、戦争をする人を少しでも減らせるように出来る限りの事をしていきたいと思います。



小学校は一年一クラスの少人数編成です。喜びや悲しみを分かち合い、課題があれば一緒に考えながら、子どもたちはクラスの子たちと毎日を過ごしています。

一日の積み重ねが子どもたちの成長につながり、その時間はかけがえのないものです。これからも、「共に在ることが喜びとなる」学校づくりを目指していきます。

合唱団

合唱団 六年生一回

コンクールシーズン前は、六年生としての覚悟ももてず、自分のことを優先していったと思う。その気持ちのまま夏休みに入り、自分達の練習は中途半端、歌声も先輩方が紡いできたものとは違っていた。結局、夏の県大会では悔いが残るステージで終わった。

そんな中何となくかんたんな全国大会の切符を前に、「今度こそ」悔しさをバネに、自分達が変わるチャンスと思った。素直な気持ちで一からの基礎に取り組み、人一倍情熱をもって練習に励んだ。

全国大会当日、出演順は、三十七校中のトップバッター。緊張感に包まれたが、これまでの日々を信じ熱い気持ちでステージに立った。体調不良で出場できなかった仲間達の思いを胸に、音楽の世界に入り込み、最後まで夢中になって歌った。歌い終わった時、世界がキラキラと煌いた。

金賞受賞、そして積み重ねた全てを、「誰もが忘れられない最高の宝物」にできたことを幸せに思う。

「流れ星の様に過ぎる一瞬一秒を大切に、卒業まで全力で歌いぬく」

私達の覚悟はもう揺らがない。



中 学 校

二〇二五年度中学三年生の

卒業に寄せて

成毛 祥代



御卒業おめでとうございます。長い人生の中で、高校より上の学校に進学する事が当たり前になりました。今、中学校は単なる通過点の一つと捉えられかねません。自らを振り返っても、学生生活の中で印象により強く残っているのは最後の方、大学や高校時代の事です。

でも小学校と高校の間に、間違いなく中学校はあったのです。特に、幼稚園から高校までこのドミノコで過ごした私は、今もこの環境に居る事で、何をどの先生にどんな風に教わったか、友達とどこでどう過ごしたか等はつきり思い出せます。私には自分の目がしっかりと開いたのは高校に入ってからだという自覚があり、中学までのひたすら引込み思考だった自分をあまり好きではありませんでした。それでもあの時の自分があったからこそ、人の痛みや苦しみを、少しは理解できる様になったと今は思っています。

皆さんには、これからまだまだ色々な事が起こるでしょう。中学時代の細かい事はその内忘れてしまいかも知れませんが、でもきっと皆さんのどこかに、中学の時に経験した事や学んだ事―それは勉強の事じゃなくても―は残っていて、気付かない内に皆さんの事を助けてくれるのです。どうか、ここまですり前を向いて、元気に真っ直ぐ歩いて行ってください。ずっと応援しています。

体感は一瞬 過ぎたのは三年

三年A組 菅野 ひばり



私は幼稚園から本学院に通い、人生の八割をドミノコで過ごしてきました。その長い学校生活の中でも、中学校の三年間は、多くのことを経験できた時間だと感じています。

学校行事では、体育祭や文化祭などで高校生と一緒に活動でき、とても楽しい思い出になりました。球技大会に向けて友人たちと応援グッズを作ったり、文化祭のクラス出店を成功に導くために奔走したりと、最大限楽しむための工夫をしました。

クラスの中で、ときには意見がぶつかり合い人間関係に戸惑うこともありましたが、今ではお互いに信頼し合えるような関係です。個性が豊かで温かいクラスメイトと過ごした日々は私にとってかけがえのない時間でした。

また、私は生徒会長を務めさせていただきました。会長という仕事に挑戦しようと思えたのは、先生方や友人たちの後押しのおかげでもあります。この貴重な経験は、私の視野を一層広げてくれました。

私がここまで成長できたのは、ドミノコ学院という環境のおかげだと思います。私と一緒に過ごしてくださった全ての皆様に、感謝の気持ちを伝えたいです。



職場訪問から学んだこと

一年A組 櫻井 楽翔



私たちは中学一年生は、レストランHACHHIに経営されている(株)オーリスパイスさんへ職場訪問に行きました。

訪問する前に、ホームページを見てHACHHIについての事前学習を行いました。それを見て分かったことは、歴史が長く各店舗に限定メニューがあるなど、お客様の工夫があることを知りました。

当日は、まず社長の佐々木さんが挨拶をしてくれて、その後実際に社内の様子を見せていただきました。デザイン室では、今まで制作してきたグッズを見せていただき、その中にはマグカップやグラスなど数え切れないほどのグッズがあつてびっくりしました。さらには新商品の開発、新しいコラボグッズなど様々なことを考えていて、これがHACHHIが長く続いている理由の一つだと思いました。

事務室では、主に経理を管理している方が仕事をしていました。また、会長さんからはSNSを活用した広報について教えていただきました。最後の質問コーナーでは、全員の考えた質問や疑問に細かいところまで答えてくださり、お店について深く知ることができました。

今回の職場訪問で分かったことは、お店の管理や新商品の開発、新しい企画など色々難しく慌ただしい中でも、みんなが分担し協力して仕事をするとということが大切だと気づくことができました。



活躍するドミノコ生

【聖ドミノコ学院中学校】

- 令和七年度仙台市中学校弁論大会 3年 佐藤 菜月 優良賞
- 令和七年度仙台市武道まつり 剣道大会 2年 五十嵐晟羽 第2位
- 令和七年度仙台市中学校新人大会 剣道競技 女子団体 Bブロック 第1位 野村 咲菜 1年女子個人 Dブロック 第1位 高橋 和花 2年女子個人 Dブロック 第2位 蟹澤 心陽 男子団体 Dブロック 第1位 及川 蒼介 1年男子個人 Aブロック 第1位 遠藤 國光 2年男子個人 Bブロック 第2位 鹿野 柊飛
- 令和七年度 社会を明るくする標語コンクール 中学校1年の部 最優秀賞 1年 佐々木采紀 中学校2年の部 優秀賞 2年 半田 瑛心 中学校3年の部 優秀賞 3年 久保田啓介
- 令和七年度宮城県中体連剣道専門部 優秀選手賞 3年 佐々木りく 堀江葵咲絆 堀江結子 小笠原杏莉 佐々木りく 千葉 桃佳 堀江葵咲絆
- 功績賞 3年
- 第三十三回標榜杯剣道大会 第3位 女子剣道部
- 令和七年度第六十四回宮城県造形教育作品展 入選 3年 菅野ひばり
- 第九回宮城県中学校新人剣道選抜大会 女子団体 第1位 野村 咲菜 1年女子個人 第3位 野村 咲菜 2年女子個人 第1位 高橋 和花 男子団体 第2位 蟹澤 心陽 1年男子個人 第1位 及川 蒼介 2年男子個人 第2位 遠藤 國光 第2位 鹿野 柊飛
- 令和七年度仙台市中心の輪を広げる体験作文コンテスト 優秀賞 2年 五十嵐晟羽 高橋 蘭帆 向井 一
- 令和七年度仙台市障害者週間ポスター 中学生部門 最優秀賞 2年 蟹澤 心陽 優秀賞 2年 小林 健人
- 栃の葉カップ剣道大会 女子団体 Aブロック 第4位 女子剣道部 男子団体 Cブロック 優勝 男子剣道部
- 第十三回復興の詩独唱コンテスト 金賞 3年 松本 廉生
- 第七十九回仙台市小中学校児童生徒書き初め展覧会 中学生毛筆の部 入選 3年 佐藤 奈月 3年 佐藤 奈月

日々の感謝(職場体験を通して)



二年A組 高橋 咲月
私たち中学二年生は、十一月中旬に今年度の大事なイベントの一つである職場体験に行っていました。

私は介護施設での体験活動を行いました。体験初日の全体を通して、最初から最後まで利用者の方々のよりよい生活サポートとともに、おもてなしの精神が大切な仕事であることを学びました。

いよいよ最終日となった三日目、私にとっても大きな出来事がありました。私とスタッフさんで一緒にトイレのサポートをさせてもらった時に、少し怒り気味な利用者の方がいました。スタッフさんから「このような方も長年の尊重すべき人生の歩みがあるから、私達は反抗心ではなく、素直な心を持つ事が大事です。」と教えていただき、なるほどなと思いました。

この三日間を通して、他者との関わり方の再確認や、日々両親がどれほど家族のために頑張ってくれているのかを知り、日頃から感謝と労りの気持ちを持って生活したいと思いました。

修学旅行の思い出



三年A組 佐々木 りく
私たち三年生は十二月三日から、五日まで修学旅行で長崎県を訪れました。

浦天主堂では、長崎の深い歴史と人々の思いに触れ、心に残る時間を過ごしました。夜には稲佐山から夜景を眺め、美しい景色に感動し、友達と写真を撮ったり展望台に行き高いところから景色を見たりして楽しみました。

長崎市内自主研修では中華街を訪れ、みんなでちゃんぽんや皿うどんを食べて、長崎ならではの食文化を楽しみながら学ぶことができました。ハウステンボスでは、まるで海外に来たかのような美しい街並みに感動し、アトラクションに乗ったりご飯を食べたり、友達と写真を撮りながら楽しい時間を過ごしました。

そして、長崎原爆資料館では、原爆の恐ろしさや平和の大切さを強く感じ、普段当たり前だと思っている日常がどれほど幸せなものかを改めて考えさせられました。また、被爆者の方のお話を直接聞くことができ、決して忘れてはならない貴重な体験となりました。

この三日間は私にとって忘れられないものとなり、友達との絆が深まり、たくさんの思い出をつくることができました。この修学旅行で学んだことを大切に、これから生活に活かしていきたいと思いました。



日々の生活に感謝

『河北新報』「今できることプロジェクト」



一年A組 大友 咲希
東日本大震災は私が生まれる前に起こりました。私が住んでいた自宅にも二メートルの津波がきて、全壊になりました。

当時の話を両親から聞いたことはありません。だからこそ、震災当時の被害状況を知り、また、今後の生活で何が出来るのかを考えたいと思います、今回のプロジェクトへ参加しました。

東日本大震災遺構・伝承館である旧気仙沼向洋高校を訪れた際に、震災当時の映像を見ました。その映像は、津波によって建物が破壊されていたり、火事が起きていたり、とても心が締め付けられる内容でした。

また、リアス・アーク美術館に行った際のお話では「防潮堤は、津波が来るのを抑えるためじゃない、時間を稼いで、逃げるために作られている」と教わりました。このお話を聞いて、津波の恐ろしさを詳しく知ることが出来ました。東日本大震災は過去の出来事ですが、これからの未来でも起こり得ることであり、災害への備えが必要不可欠であると感じました。

今回の経験を通して、自然災害の恐ろしさがとてもよくわかりました。今日の生活が、何不自由なく暮らしていることは、決して当たり前なことではないことを認識し、日々「感謝」の心を忘れず、毎日の生活を過ごしていきたいと思っています。



中学生硬筆の部

入選 1年 榊原 咲月

令和七年度仙台市小・中学校図工・美術合同展 3年 菅野ひばり

第七回北日本競技かるた選手権大会 3年 西脇 美月

C級 第3位 1年 金原 享佑

第三十九回中学校宮城県剣道選手権大会 優勝 剣道部

女子団体 最優秀選手賞 2年 高橋 和花

男子団体 優秀選手賞 第2位 剣道部

男子 優秀選手賞 2年 半田 瑛心

令和七年度宮城県スポーツ合同表彰 宮城県中学校 功績賞 3年 堀江葵咲絆

体育連盟(東北大会優勝による) 功績賞 3年 女子剣道部

個人 功績賞 3年 女子剣道部

団体 功績賞 3年 女子剣道部

【聖トニコ学院高等学校】

令和七年度仙台市武道まつり剣道大会

女子の部 第1位 2年 澤村ここみ

第3位 3年 佐藤はるか

男子の部 第1位 1年 門岡 海杜

第3位 3年 阿部 陽菜

レシーク賞 2年 伊藤 千奈

スパイク賞 3年 伊藤 千奈

宮城県高等学校体育連盟 バレーボール専門部 優秀選手賞 3年 鈴木 珠奈

功労賞 3年 神林茉旺莉

令和七年度第四十回東北建築フォーラム「未来のエスキースを描く」コンクール 3年 未来のエ

第二十二回日本海旗争奪高等学校剣道大会女子団体 優勝 女子剣道部

優秀校 女子優秀選手賞 2年 千葉さくら

第四十六回仙台市民総合体育大会 2年 千葉さくら

種目 バレーボール

第3位 3年 バレーボール部

令和七年度宮城県高校体連剣道専門部 功労賞 3年 高橋 杜環

令和七年度宮城県高等学校新人大会 剣道競技 女子団体 第2位 女子剣道部

第十四回創作絵本・紙芝居・デジタル絵本コンテスト 努力賞 2年 津田 椎香

第二回東陵杯高等学校選抜剣道大会 優勝 女子剣道部

第三十七回宮城県合唱アンサンブルコンテスト高等学校部門 銅賞 音楽部

第六回ビクトリーカップ 高等学校女子バレーボール交流大会 第3位 バレーボール部

スパイク賞 2年 伊藤 夕奈

第四十九回高等学校宮城県剣道選手権大会 女子団体 優勝 剣道部

女子 最優秀選手賞 2年 及川 文伽

高等学校

【進路とは?】



高校三学年主任 及川 俊浩

卒業おめでとうございませう。さて、高校生活はどうでしたか。楽しかった、苦しかった、等等と様々な思いがあるでしょう。

高校三年生ということで、それぞれのミッションの一つは高校卒業後の進路を決めることです。でもみなさんには更なる進路が待ち受けています。それは長い長い道のりであろう人生という進路です。順調にいく人、苦難の連続の人、様々な進路が待ち受けていると思います。その進路に立ち向かっていくことが大切になります。

日本では長らく学歴社会という言葉が聞かれます。さて学歴社会とはどのような社会なのでしょう。ChatGPTに学歴社会とは、と聞いてみたところ、「個人の能力や実績よりも、最終学歴(出身学校・学位)が評価や処遇に大きく影響する社会のこと」との回答がありました。残念ながら、みなさんもそのような社会に踏み出していくことになりそうです。でも社会は変化していきます。みなさんが社会の第一線で活躍していく頃には変わっているかもしれない。以前、お目にかかったある学校の校長先生は、「学歴はどこを出たか、ではなく、何を学んできたのか、何を積み重ねてきたのか、その履歴であると思います。」と話されました。将来実力が正当に評価されるような社会の到来を願い、そのような社会で活躍できる人になっていくことを祈念しております。



【優しい】



三年二組担任 鈴嶋 里紗

この学年は三年間担当させていただきましたが、一組の生徒たちを担当したのは、二年生からでした。一年生は未来探究進学コースの三組を担当しており、二年生から特別進学コースを担当することとなり、最初はお互いにぎこちなさがありました。

三年一組は、群がり過ぎず、適度な距離を保ちつつも、団体行動のときは協力することができると、優しい生徒たちの集まりです。心優しい子たちで、いつも手伝ってくれます。担任ではありませんが、出張や入試、外部とのやり取りが多い業務を担当しているため、なかなか生徒たちと時間が取れない時期が多くありました。コースリーダーの橋本先生、副担任の鈴木先生をはじめとし、たくさんの方々のご協力のもと、一組と二年間過ごすことができました。

そして、私の状況を理解して、いつも心配してくれた一組。たくさん我慢させたこともあったと思いますが、あなたたちの優しさのおかげで私自身も成長できました。その優しさでこの先出会う方々を助けてあげてください。きつとあなたたちならできます。卒業おめでとう。

【リリース?】



三年二組担任 及川 俊浩

小野尚先生という大投手のあとを受けてのリリース登板。プレッシャーが重くのしかかりました。クラスのみならず、小野先生が担任ではない、とわかっていましたから、四月の最初の日、それぞれが複雑な想いを抱いたことでしょう(今でもそうかもしれません)。もちろん保護者におかれても同様であったと思います。

新学期が始まる前には、前任者と同じ事は出来ないし、するつもりもない。私が出ることでやっつけていこう、と考えていました。小野先生を懐かしがる人々もいるだろうと予想しました(実際にいます)。それは叶わぬ願いとして、受け止めてもらうしかない、自分としても受け止めていこうと考え、日々の生活を送ってきました。そして何とか、卒業にこぎつけることができました。それは二組の生徒並びに保護者のみなさんの協力があってからと感じています。改めてお礼を言わせていただきます。ありがとうございます。

最後の女子クラス



三年三組担任 石川 裕之

今年の卒業生は、何年かぶりの担任で三年間持ち上がった久しぶりの学年でした。全クラス保健と体育も三年間持たせてもらいました。そういった意味でもとても関りが多く、思い入れがたくさんある学年でした。皆さんと過ごせた三年間はとても楽しかったです。ありがとうございます。

ドミニコ最後の女子クラスである三組の皆さんとは三年間(半分は二年間ですが)担任として関わらせてもらいました。久しぶりの担任として日々試行錯誤でしたが、皆さんに支えられてきたおかげでやり切ることができたのではないかと思います。感謝しています。私の担任としての目標は「進路達成」と「大人にする」でした。皆さんが頑張ったおかげで「進路達成」の目標は果たせたと思いますが、「大人にする」とことは道半ばだと思います。これまで様々な場面で大人になる種をまきましたので、卒業後にそれぞれがそれぞれの大人の花を咲かせてくれると信じています。楽しみにしています。可愛い娘たちよ、卒業おめでとう！担任をさせてくれてありがとうございます。

初めての男子生徒



三年二組 江口 陽向

聖ドミニコ学院に入学して六年が経ち、間もなく卒業を迎えます。学校生活を振り返り、最も思い出に残っていることは、特別な出来事というよりも、毎日の学校生活そのものでした。

私は、初めて中学校男子として学校生活を送ることになりました。最初は新しい環境に不安もありましたが、友人と過ごす中で次第に学校生活を楽しめるようになりました。授業の合間の何気ない会話や部活動、放課後に一緒に過ごした楽しい時間は、今でも心に残っています。また、学院での生活の中で信頼できる先生に多く出会えたことも大きな思い出となりました。悩んだ時には、沢山話しを聞いてもらい、支えられました。部活動や体育祭を通して、後輩とも仲良く接することができたことはとてもうれしく、大切にしたい仲間になりました。学年を越えた関わりを通して、人とのつながりの大切さも学ぶことができました。

時代はどんどん変わるから

こそ已然形

進学選抜コースリーダー 橋本 ひかり

進学選抜コースは冬の講習を終えました。それぞれ成長が見られました。教科にムラはあるものの、まず学びの辛さや乗り越えて自分「もつと学びたい」という分野を見つけれればと思います。また、国立大学法人佐賀大学に「コスメティックサイエンス学環」ができたニュースをみて、日々益々私自身も大学の特性や動向を学んでいかなければと思います。「流行」と「不易」を大切にしたいです。

今まで見てきた中で伸びる生徒は、間違うことを怖がらずに、いかにして三年間でできることを増やすかという考えを持っていました。受

験は長期戦です。途中でうまくいかなくても、最終的な目標を見失わなければ解答用紙にバツがつくことを極端に怖がらずにすみませう。「今は順位が低いけれど」「今は偏差値低くても」……まだまだ伸びます。努力ができる環境を整えていきたいです。最初から出来ていなくてもいいと考えます。高校三年間をかけて、変化の多い時代において、コースとして学力と人間性の両方を意識して、どのような時代が来ても適応できる人間を育てていきたいです。



選抜探究コースの一年を振り返って

進学探究コースリーダー 大坂 康寛

孟子の言葉に、『その小を養うものは小人たり、その大を養うものは大人たり』という言葉があり、目先の小さな欲望を大切にすることは小物であり、心という根本的に大きな物を大事に養うものは大きく成長する。大事なことは心の鍛錬であるということです。

探究コースでは、授業はもちろんのこと、生活の中で、部活動の活躍や、文化的行事、様々な作品受賞など、力を十二分に伸ばし、人間性が大きく成長しました。目を見張る成長は、現状に満足せず、未知の力を探り、できなかった事に再チャレンジしようとする心が育った事です。時に心折れ、友達間で、互いに悩みながら、多くの事柄におつきりながら、立ち止まりながら、個々のスピードで可能性を伸ばそうと歩みを進める姿が多くありました。これも、自分の考えや行動に覚悟を持ち、取り組む心が育ったことが大きな要因です。

いよいよ二年生です。一年間で培った力を生かし、のびのびとした学校生活を送れるよう願っております。



負けない気持ち

特別進学コースリーダー 橋本 ひかり

特別進学コースでは、年内に、福島大学経済経営学類への合格をすることが出来ました。間近で携わってきたため、努力と成長の過程に涙腺が刺激されます。しかし、余韻に浸る間はありませぬ。原稿を書いているのがまさに大学入学共通テスト二日前です。いよいよコースとして重大な局面を迎えます。健やかなるときも病めるときも見守って声かけをしてきました。当日は、自信を持って実力を発揮してくれることと思います。

人生、時には、夢や目標について、批判されることもありませぬ。「無理だ」と言われていたのに、うまくいった瞬間に手のひらを返されることも多々あります。自分ではどうしようもない苦難に巻き込まれることもあるでしょう。当事者にしか分からない苦悩もあります。そのようなときに「勉強を頑張りたい」という共通の志を持った仲間がいるというのは大変心強いことです。コースが一丸となって受験に立ち向かえるような雰囲気づくりと切磋琢磨できる環境をこれからも作ってきたいです。



第二回「高大連携授業」

総合進学コースリーダー 伊藤 崇

総合進学コースでは、二年生を対象に、二月六日(金)に第二回「高大連携授業」を行いました。今回は、講師として東北福祉大学総合福祉学部福祉行政学科学科長である萩野寛雄先生に御来校いただき、「アンパンマンはなぜ愛と勇気【だけ】が友達なのか?」というテーマで、授業を行っていただきました。

授業ではまず、高等教育である大学では、教科書の内容をただ理解するだけでなく、教科書とは違う方法を創造したり発見することが大切であり、「疑問」を見つけ、その「疑問」に対する説得力のある自分なりの考えを示す必要があることを確認しました。そしてそれを実践するために、日常生活の中で常に学びの「アンテナ

を張り続ける」ことが重要であることとそれをを行うことで人生に差が出てくることも知りませぬ。このことをふまえて、子供の頃から知っている「アンパンマンのマーチ」の歌詞を題材にして、それを「解釈」するために必要な知識や考え方に ついて丁寧に説明していただき、生徒達は、大学で学ぶとはどういうことか、ということに関するイメージを持つことができました。

授業後の生徒達の感想文の中で、「たとえ正しいかどうかは分からなくても、自分の力で学んできた様々な知識をもとに、根拠を示しながら自分の考えを確立することこそが大学での学びである」という文章が特に強くなりました。という文章が 生徒たちの反応も非常に良好であり、大変貴重な学びの機会となりました。



祝 卒業

未来探究進学コースリーダー 石川 裕之

未来探究進学コースの三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。コースリーダーが担任でしたので何かと話しにくいですが、未来探究進学コースの生徒は、「やる時はやる」生徒の集まりだと感じています。(継続が課題だとも感じています。)だからこそ、学校行事の運動会や球技大会、ドミニコ祭等々に全力で臨み、素晴らしい成果が出せたのだと思います。準備段階からみんなで話し合い役割分担をしながら進めていく姿がとて頼もしくみえました。進路面でも全員が志望進路を達成してくれて、コースリーダーとして(担任としても)とても嬉しかったです。【大学・短大一四名、専門二名、就職二名】



来年度が未来探究進学コース最後の年になりますが、二年三組の皆さんは先輩方の背中を追いかけ、それぞれの進路に向かって突き進んでほしいです。

令和八年三月卒業生(六十四名)の進路状況

(令和八年2月17日現在)

【大学合格者】(54名)

- 福島大学・東北学院大学(22)・東北工業大学・東北福祉大学(12)・東北生活文化大学・仙台白百合女子大学・尚絅学院大学(2)・宮城学院女子大学(7)・石巻専修大学・聖徳大学・聖心女子大学・日本大学・日本女子大学・東京女子大学・工学院大学(2)

【短期大学合格者】(8名)

- 仙台赤門短期大学(3)・聖和学園短期大学(2)・仙台青葉学院短期大学(2)・関西外国語大学短期大学部

【専修学校・各種学校等合格者】(17名)

- キヤスウェル外语エアライン・ホテル&ブライダル専門学校・仙台ウェディング&ブライダル専門学校・仙台スイーツ&カフェ専門学校・仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校・仙台接骨医療専門学校(2)・仙台総合ビジネス公務員専門学校・仙台総合ペット専門学校・仙台デザイン&テクノロジ専門学校・仙台デザイン専門学校・仙台幼児保育専門学校(2)・専門学校日本デザインナール芸術学院・東北電子専門学校(2)・宮城高等歯科衛生士学院・宮城調理製菓専門学校

【公務員】(2名)

- 陸上自衛隊(2)

【民間就職】(1名)

- 宮城三菱自動車販売株式会社

※人数は延べ人数

一年を振り返って

小学校校長 森 研二



子供たちは現在、この一年で積み上げてきた学びを振り返りながら、次の学年に向けて着実に歩みを進めています。年間を通して様々な行事に取り組み、学年を超えた関わりも大切にしてきました。子供たちは互いに声をかけ合い、自然に助け合う姿が多く見ら

卒園・進級の時期を迎えて

角五郎幼稚園・北仙台幼稚園 園長 佐々木 和



この一年間で、子どもたちは日々の遊びや生活の中で多くの経験を重ね、心も体も大きく成長してきました。その姿をそばで見守ることができたことを、教職員一同、何よりの喜びとして感じております。

まもなく卒園を迎える年長児の皆さんは、驚くほどたくましくなりました。友だちと力を合わせる姿、自分の思いを言葉にして伝えようとする姿、困難に向き合いながら最後まで諦めずにやり通す姿…。その一つひとつが、次のステージへ進む自信につながっていることでしょう。卒園し小学校入学という新しい環境に変化しても、今まで幼稚園で培った力を存分に発揮し、豊かで新鮮な毎日を通して、くれぐれを願っています。

進級する子どもたちも、またひとつ大きい年齢のクラスになる期待を胸に、日々の生活を喜んで過ごしてくれ

れ、その関わりが学校全体の温かな雰囲気を作っていました。中でも、六年生は最上級生として学校を力強く導きながら、広島への修学旅行を通して平和について深く学びました。戦後八十年という節目の年に、平和の尊さ、人間の命の重さを胸に刻み、自分たちができる平和の形を考え、発表する姿は大変頼もしいものでした。この経験は、中学校へ進む児童にとって大きなみちしるべとなることでしょう。カトリック校として私たちは常に神様から

ることを願っています。

これからも、子どもたち一人一人の気持ちに寄り添いながら、安心して過ごせる環境づくり、楽しさあふれる活動を計画してまいります。

幼稚園で過ごした日々の思い出を胸に、四月からは小学生として、そしてドミニコの園児として、それぞれの場所で新しい生活をのびのびと楽しんでいってほしいと思います。

園児・保護者・教職員のこれからの歩みが、笑顔あふれる毎日となりますよう、心より願っております。

おめでとうわんぱくまつり

○全国教育美術展

入選 百目木 いち栞

(角五郎幼稚園)

「かわいいとうもろこしちゃん」

佳作 高橋 歩果 (北仙台幼稚園)

「おいしいとうもろこし」



与えられた一人ひとりの尊い命を敬い、隣人を大切にすることの教育を重ねています。「汝の隣人を愛せよ」というイエスの言葉を胸に、新たな学年でも周りの人に温かな眼差し向け、目の前の人を大切にすると共に自分の持ち味を生かし、互いに支え合う関わりの中で成長してほしいと願っています。進級・進学を迎える子供たちの上に豊かな祝福がありますよう心からお祈りいたします。

修学旅行を終えて

高校二学年主任 伊藤 崇

今年度の二学年修学旅行は、十二月一日から四日までの三泊四日での関西方面への行程で実施されました。初日は早朝の仙台空港への集合でしたが、生徒全員一人の遅刻もなく時間前に集合し、学年としてのまとまりを感じる幸先良いスタートとなりました。飛行機で関西へ移動後、法隆寺、奈良公園(東大寺)、興福寺国宝館を見学し、日本の歴史と文化の重みを肌で感じながら、夕刻には大阪市内のホテルに入り、長い一日の疲れを癒やしました。

二日は班ごとの終日自主研修で、大阪または京都をそれぞれの計画に沿って巡りました。事前準備の成果が随所に見られ、各班協力しながら行動する姿が印象的でした。

三日目には生徒たちが一番楽しみにしていたユニバーサル・スタジオリゾートで終日過ごし、アトラクションと仲間との交流を存分に楽しみ、思い出をさらに深めました。

最終日は京都の清水寺、宇治の平等院鳳凰堂を見学し、歴史と文化の学びを締めくくりました。伊丹空港から仙台空港へ無事帰着した時には、全行程を病気や事故もなく終えられたことを大変嬉しく思いました。

それも引率された学年の先生方のきめ細やかな見守りと対応、送迎も含めた保護者の皆様のご協力、そして何より旅行中の生徒の皆さんの行動のおかげです。学年主任として、心より感謝申し上げます。生徒たちにとって楽しく充実した忘れられない思い出となったであろう、素晴らしい修学旅行でした。



お雛様作り(全園児作品)【北仙台幼稚園】



味増でスマイル【北仙台幼稚園】



味増づくり体験【北仙台幼稚園】



年中絵画【角五郎幼稚園 作品展】



マフラー・ポシエット【角五郎幼稚園 作品展】



年少折り紙制作【角五郎幼稚園 作品展】

